

# 国際学研究科

# 研究指導概要

## 博士前期・修士課程

### 1. 各セメスタの指導内容

学生は、指導教員と密接に連絡をとりながら、履修指導ならびに研究指導を受けなければならない。なお、各セメスタにおける指導内容は下記のとおりである。

#### 1セメスタ

指導教員と研究テーマを検討し決定して、それに基づいて研究計画を立案する。

履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 2セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら、研究計画、研究手法等を検討・確定し、調査・研究を進める。

履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 3セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら調査等を実施し、分析を行う。学会、学内紀要等への投稿も奨励する。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 4セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら、追加の調査や研究を行い、学位論文としての完成度を高めてまとめあげる。学会、学内紀要等への投稿も奨励する。

履修指導に基づき必要な授業を履修する。

### 2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

#### <グローバル・イノベーション学専攻>

春学期・秋学期ともに、全学生出席による学期中間発表会と期末発表会を行う。全学生に研究計画及び進捗状況の報告を義務づけ、研究指導のマイルストーンとするとともに、学生自身の学位論文執筆の進捗管理としても活用する。詳細は、適宜専攻から配布される資料等を参考にすること。

#### <国際地域学専攻>

春学期・秋学期ともに、全学生出席による学期中間発表会と期末発表会を行う。全学生が研究計画及び進捗状況の報告を必須とする。とくに博士前期課程においては、発表会での成果が「国際地域学特殊研究」の成績評価に大きく反映される。詳細は、適宜専攻から配布される資料等を参考にすること。

### 3. 特定課題研究論文

社会人学生に対しては、修士学位論文に代えて特定課題研究論文の提出を認めている。特定課題研究論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文であり、下記の要件を満たしている必要がある。

#### <グローバル・イノベーション学専攻>

① 未来事象を予測するためのモデルを設計・構築するといった、実務に直結する実践的な研究であること。

② 本専攻の目的「既存のナレッジをこれまでと異なる視点や方法で再結合することにより「イノベーション」を創出できる次世代リーダーの養成」に沿っていること。

#### <国際地域学専攻>2019年度以前入学生適用

① 学会における口頭発表論文が1本以上あること。

② 専門誌などにおける論文発表が1本以上あること。

③ 授業科目等について32単位以上取得（見込）していること。

※①②については本人の貢献箇所について提出時に明らかにすること。

なお、特定課題研究論文を選択する学生は、論文を提出するセメスタの履修登録時に指導教員の了承を得た上で履修しなければならない。

## 博士後期課程

### 1. 各セメスタの指導内容

学生は指導教員と密接に連絡をとりながら、履修指導ならびに研究指導を受けなければならない。なお、各セメスタにおける指導内容は以下のとおりである。

#### 1 セメスタ

指導教員と研究テーマを検討し決定して、それに基づいて必要な調査、研究手法、研究計画を立案する。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 2 セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら、研究計画、研究手法等を検討・確定し、学会、学内紀要等への投稿を見据えて、その締め切りスケジュールも考慮して、調査・研究を進める。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 3 セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら、研究計画、研究手法等を検討・確定し、学会、学内紀要等への投稿を見据えて、その締め切りスケジュールも考慮して、調査・研究を進める。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 4 セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら調査等を実施し、データ分析や取りまとめを行う。併せて、修了要件を満たすよう学内外への論文投稿を積極的に行う。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 5 セメスタ

指導教授から進捗状況に応じた指導を受けながら調査等を実施し、引き続きデータ分析や取りまとめを行う。併せて、学内外への論文投稿を積極的に行う。博士論文の執筆を開始する。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

#### 6 セメスタ

分析の精度を高め、論文の完成度を高め、論文を提出する。予備審査および公聴会に向けて、必要な修正を行い、さらに論文の完成度を高める。履修指導に基づき必要な授業を履修する。

### 2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

春学期・秋学期ともに、全学生出席による学期中間発表会と期末発表会を行う。全学生に研究計画及び進捗状況の報告を義務づけ、研究指導のマイルストーンとするとともに、学生自身の学位論文執筆の進捗管理としても活用する。また、この発表会では指導教員以外からも研究内容に関する質疑応答が行われるため、様々な角度からの質問に答えられる能力を養うことが可能となる。加えて、学生間でもお互いの研究内容を知ることで切磋琢磨しあう。

詳細は、適宜専攻から配布される資料を参考にすること。

# 東洋大学大学院国際学研究科規程

平成30年規程第71号

平成30年4月1日

施行

改正 平成31年4月1日 令和2年4月1日

令和3年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学大学院学則（昭和29年4月1日施行。以下「学則」という。）第4条第5項に基づき、東洋大学大学院国際学研究科（以下「国際学研究科」という。）の教育研究に関し必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 国際学研究科は、学則第4条の2に基づき、研究科及び各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を別表第1のとおり定める。

(修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第3条 国際学研究科は、学則第4条の3に基づき、各専攻の修了の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 国際学研究科は、学則第5条の2及び第7条に基づき、各専攻の教育課程における科目区分、授業科目及び研究指導科目の名称、単位数、配当学年、履修方法等を別表第3のとおり定める。

(修了に必要な単位等)

第5条 国際学研究科は、学則第12条及び第13条に基づき、各専攻の修了に必要な単位等を別表第4のとおり定める。

(改正)

第6条 この規程の改正は、学長が国際学研究科委員会の意見を聴き、研究科長会議の審議を経て行う。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2020年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2021年4月1日から施行する。

別表第1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（第2条関係）

国際学研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p><b>【博士前期・修士課程】</b></p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか                  様々な課題と可能性を持つグローバルな社会において、国際的な視野のもとで、イノベーションを創造し自律的・持続的な地域の発展に貢献する専門能力を有する実務家・専門家を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的                  国際的な視野をもち、国内外の地域の課題の理解と解決のための調査・分析能力と、当該分野における新たな知見を付与する能力を習得させることを目的とする。</p> <p><b>【博士後期課程】</b></p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか                  様々な課題と可能性を持つグローバルな社会において、国際的な視野のもとで、イノベーションを創造し自律的・持続的な地域の発展に貢献する専門能力を有する専門家・研究者を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的                  国際的な視野と国内外の地域の現状と課題に対する大局観を持ちつつ、イノベーションを創造し地域の課題を解決するための調査研究および実践に対して、研究者として自立して研究活動を行うに足る高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を習得させることを目的とする。</p>

国際学研究科グローバル・イノベーション学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p><b>【修士課程】</b></p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか                  イノベーションを通じて経済社会の発展に貢献しようとする起業家精神をもち、地球規模の全体最適を目指すグローバリズム実現のための諸課題を「グローバル」な視点で的確に捉え、更なる課題解決・改善のために既存のナレッジをこれまでと異なる視点や方法で新結合することにより、営利・非営利のあらゆる事業体の活動において「イノベーション」を創出できる、卓越したリーダーシップを備えた次世代リーダーを養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的                  経済・金融・産業など経済社会を構成する諸領域について、講義・演習科目を通じて専門的かつ実践的な理論を習得させるとともに、「イノベーション」のあり方を実践的に研究することを通して、課題解決能力や価値創造能力を習得させる。また、実践活動科目において、理論を実践へと転換させるための分析能力や遂行能力など、優れた実践的能力を向上させる。さらに、「グローバル」な視野から自らが積極的に社会へ発信するための英語力と論理的思考力に裏打ちされたコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。</p>

国際学研究科国際地域学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
<p><b>【博士前期課程】</b></p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか                  国際的な視野のもとで、自律的・持続的な地域の発展に貢献する地域開発リーダーとして国内外の「地域づくり」に貢献できる、高度な専門的能力を有する専門家を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的                  国際的な視野をもち、国内外の地域の課題の理解と解決のための調査・分析能力と、当該分野における新たな知見を付与する能力を習得させることを目的とする。</p> <p><b>【博士後期課程】</b></p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか                  国際的な視野のもとで、自律的・持続的な地域の発展に貢献する地域開発リーダーとして国内外の「地域づくり」に貢献できる、理論と実践とのバランスが取れた学際的な専門家・研究者を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的                  国際的な視野と国内外の地域の現状と課題に対する大局観を持ちつつ、地域の課題の解決のための調査研究および実践に対して研究者として自立して研究活動を行うに足る高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を習得させることを目的とする。</p>

別表第2 修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針（第3条関係）

国際学研究科グローバル・イノベーション学専攻

<p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p>
<p><b>【修士課程】</b>          本研究科・専攻における人材養成に関する目的および教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質要件及び能力要件のすべてを満たしていると認められたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <p>&lt;資質要件&gt;          本専攻における日本人学生と外国人留学生とが共存する多様性環境のもと、日本人学生については、日本人としての確固たるアイデンティティを確立したうえで、日本国内および海外において、必ずしも従来の日本的習慣に縛られないグローバルな視野で、イノベーションを通じて社会に貢献しようとする意思と意欲を持つ者。</p> <p>外国人留学生については、日本固有の文化・伝統・価値観を理解したうえで、日本国内においては日本人とは異なる新たな視点から、自身の出身国をはじめとした日本国外においては日本で身に付けた新たな視野で、イノベーションを通じて社会に貢献しようとする意思と意欲を持つ者。</p> <p>&lt;能力要件&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) グローバル社会の様々な領域のイノベーターとして活動するための高度な実践的知識と哲学、対話・行動力を身に付けている。</li> <li>(2) グローバル企業における国際ビジネスの現場、国家間の交渉や国際機関における活動、国際的 NGO・NPO の活動や市民社会の現状などについて、専門性の高い調査・分析する能力を身に付けている。</li> <li>(3) 実践を通じた知識の獲得と応用に加え、既存の先行研究を批判的に考察し、当該分野における新たな知見と価値を創造する能力を身に付けている。</li> <li>(4) 自身の研究成果について、首尾一貫した理論に基づきつつ、独創的かつ有用な提案を示す能力を身に付けている。</li> </ol>
<p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p>
<p><b>【修士課程】</b></p> <p>(1) 教育課程の編成／教育内容・方法          ディプロマ・ポリシーの達成のために、「講義・演習科目（コースワーク）」と「実践活動科目（インターンシップ／海外プロジェクトワーク）」・「研究指導（リサーチワーク）」を体系的に組み合わせることで、知識と実践を重層的に構成した教育課程を編成する。</p> <p>教育課程には「Global Entrepreneurship Domain」「Global Business Domain」「Global Collaboration Domain」という3つの Domain（領域）を設けて体系的に科目を配置する。いずれの Domain においても、グローバルな対話における意思疎通の手段である英語による教育を行う。</p> <p>専攻の研究共通基盤となるドメイン（領域）として「Global Entrepreneurship Domain」を設置する。ここでは、イノベーション、クリエイティビティ、アントレプレナーシップを共通キーワードとする「講義・演習科目」と、さらにその知識と能力を実践により高めて、イノベーターとして活動する高度なビジネスやコラボレーションのスキル、起業家精神を獲得するための「実践活動科目」を配置する。ここでは国内外の多国籍企業・ベンチャー企業・NGO・NPO におけるインターンシップのほか、海外大学院・研究所との連携プロジェクトを実際に体験し、イノベーターとしての意識の涵養、実践的知識の高度化、対話力・行動力の向上を図る。さらに、学生の研究活動に高度な科学的根拠を与えるべく、各分野に共通する統計調査・実証分析の手法を体系的に習得出来る科目も配置する。</p> <p>「Global Business Domain」では、ビジネス領域において、経営のゼネラリストではなく、特定の分野にフォーカスした高い先進性を有した高度専門職業人材「ビジネス・IT 融合人材」としての実践的知識の修得を目指す。財務・会計データや顧客データの解析に加え、テキストマイニングなど、ICT を駆使して「ビジネス言語」を高度に運用する手法を学ぶため、会計、ファイナンス、マーケティングの各分野の科目を体系的に配置する。そのうえで、グローバルスタンダードの方法論として、XBRL、R、Python など複数の「プログラミング言語」の活用を実践的に修得する科目を配置する。各科目は、当該分野において深い実務経験と知見を有する実務家教員が主に担当する。</p> <p>「Global Collaboration Domain」では、世界の諸問題に対して多元的なアプローチから解決に貢献するために基本となる教育をおこなう。多元的なアプローチから見出される新しい視点からの問題解決への取り組みは、営利・非営利事業にかかわらず必要となるイノベーションのシードである。本専攻の特徴である、異なる文化的背景を有する教員、学生で構成されるという多文化環境を最大限に活かし、「グローバル・インターディシプリナリティ」という教育理念のもと、グローバル社会において、日本発の新たな知見と価値を生み出す「実践的アカデミア人材」が備えておくべき、高度な専門知識と実践的能力を修養するための教育課程を編成する。具体的には、多文化共生や異文化適応といった国際社会で課題となっているテーマについて、教育、メディア、政治経済、外交などの分野に関する科目を配置する。これらの科目はそれぞれの分野を専門とする、高度な知見と実務経験を有する教員が担当し、課題解決にあたって求められる知識や手法を多元的な視点で提供すべく単に机上の理論の展開に留まらず、各現場での実地調査、実証研究を組み合わせ、実践的な教育を実施する。</p> <p>なお、専攻領域にかかわらず、すべての学生に「Global Entrepreneurship Domain」の「実践活動科目」の修得を必須にすることで、講義・演習科目による専門知識の習得のみならず、実践活動を通じた実践知の獲得とその応用能力、価値創造能力を修得させる。</p>

研究指導に関しては、学生が選択した研究テーマを専門とする教員が責任をもって、少人数の学生を対象とした徹底した実践的研究指導を行う。更に、従来のコースワーク型の修士論文のみならず、産業界や提携する海外の大学院との協働による特定課題を対象としたプロジェクトワークの成果物を特定課題研究論文として取り扱う等、従来型の狭い専門研究領域の枠や文理・産学・国境の枠組みを超えた、横断的かつ実践的な研究指導を積極的に進めて行く。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 実践活動については、受け入れ先及び研究指導担当教員双方の協力のもと、あらかじめ示す実践活動計画に基づき、当該学生の知的貢献を組織的に評価する。
- ③ 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ④ 学位請求論文及び特定の課題についての研究の成果については、あらかじめ示す審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【修士課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示したものを受け入れる。

- (1) イノベーションを通じてグローバル社会に貢献しようとする起業家精神をもち、そのための実践的知識、英語を駆使した専門的能力、およびリーダーシップの獲得を目指す者。
- (2) 将来、国内外の学界や企業及びNGO・NPOなどの組織で活躍する、研究者、教育者、高度専門職業人を目指す者。
- (3) 現代社会におけるグローバルな課題に関する理解と課題解決のための基礎的な調査研究能力を有し、自己研鑽を怠らず積極的に取り組もうとする者。
- (4) 積極的に国際的に発信するために必要な学問的基盤を有し、また、その知識を実践活動に転換するための分析能力・遂行能力を有する者。
- (5) 日本人学生と外国人留学生が共存する環境のなかで、同じ目的を持って学ぶことができる、多様性への寛容な精神、及び協調的なコミュニケーション能力を有する者。

国際学研究科国際地域学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的および教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 国際的な視野を身につけている。
- (2) 国内外の地域の課題の理解と解決のための調査・分析能力を身につけている。
- (3) 先行する研究成果を吸収して、自身の研究に適切に活用できることに加え、当該分野における新たな知見を付与する能力を身につけている。
- (4) 自身の研究成果について、首尾一貫した理論に基づきつつ、自身の独創性を示す能力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的および教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満了し、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 国際的な視野を身につけている。
- (2) 国内外の地域の現状と課題に対する大局観を身につけている。
- (3) 国内外の地域の課題の理解と解決のための調査・分析能力を身につけている。
- (4) 先行する研究成果を吸収して自身の研究に適切に活用でき、自ら独創性のある成果を創出し、当該分野における新たな貢献をもたらす能力を身につけている。
- (5) 自身の研究成果について、首尾一貫した理論に基づきつつ、自身の独創性を示す能力を身につけている。

## 2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

### 【博士前期課程】

#### (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。

授業科目には、地域の課題の理解と解決のための基本的な調査遂行・分析能力を習得するための「リサーチスキル科目」を配置することに加え、専門科目として、自律的・持続的な地域発展を目標とした「地域づくり」に貢献するための国際的な視野を育成する「国際学分野科目」、地域社会・地域計画・環境マネジメント・地域インフラに関連する「地域開発分野科目」をそれぞれ体系的に配置する。「リサーチスキル科目」では、事前・事後学習課題に基づき、作業や演習の要素を多く取り入れることで調査遂行・分析能力を習得させる。「国際学分野科目」では多様な文献の講読やケーススタディを通して、国際的な視野の育成を図る。「地域開発分野科目」では、学術論文の講読などを通じて当該分野の理論とその体系を身につけることで、深い専門性を養う。研究指導では、フィールドでの研修と、実務的な文献と学術論文の講読とを合わせることで地域の課題を深く理解させることで、現場主義を重視した理論と実践とのバランスが取れた学際的な研究指導を行う。

#### (2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

### 【博士後期課程】

#### (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。

授業科目では、学術論文の講読などを通じて当該分野の体系と理論を身につけ、加えて関連する分野との関係を理解することで、研究者としての基礎的な専門性を養う。

研究指導では、フィールドでの研修と実務的な文献と学術論文の講読とにより、地域の課題を深く理解したうえで課題の解決策を見いだせる、理論と実践とのバランスが取れた学際的な研究者となるような研究指導を行う。あわせて首尾一貫した論理に基づいた完成度の高い論文の作成を指導する。

#### (2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

## 3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

### 【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学希望者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 国内外の地域の現状と課題に対する知識のある者
- (2) 地域の現状と課題を理解し分析できる能力のある者
- (3) 国内外の地域の課題の理解と解決、およびそのための調査研究に自らが積極的に取り組む意欲のある者

### 【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学希望者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 国内外の地域の現状と課題に対する幅広い知識があり、かつ専門とする分野に関する知識や分析手法を身につけている者
- (2) 地域の現状と課題を理解し分析し、それを成果としてまとめる能力のある者
- (3) 国内外の地域の現状と課題に対して、大局観を持ちつつ、その解決のための調査研究および実践に研究者として自立して取り組む意欲のある者

### 別表第3 教育課程（第4条関係）

省略する。

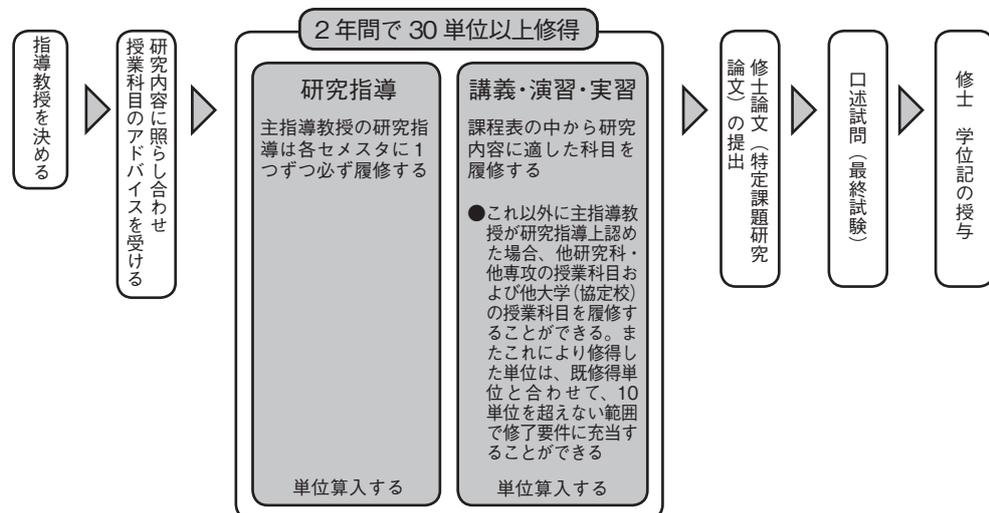
### 別表第4 修了に必要な単位等（第5条関係）

省略する。

# グローバル・イノベーション学専攻

修士課程

履修の流れ



※本専攻では、自身の研究を一層深めるために、研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

## グローバル・イノベーション学専攻

### 修士課程

区分	授業科目	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	学期	担当教員	備考	
Global Entrepreneurship Domain	Research Skills Subjects	Statistics and Data Analysis	演習	2	STS601	春	岡村 敏之 Toshiyuki Okamura 荒巻 俊也 Toshiya Aramaki	
		Applied Statistics and Data Analysis	講義	2	STS602	秋	スーザン フィオナ Susan Fiona	
		Mastering English Communication I	講義	2	IHR601	春	ジェームス ハント James Hunt	
		Mastering English Communication II	講義	2	IHR602	秋	ジェームス ハント James Hunt	
	Project Studies Subjects	Project Studies I	実習	2	ECP601	春秋	今村 肇 Hajime Imamura	
		Project Studies II	実習	2	ECP602	春秋	今村 肇 Hajime Imamura	
	Specialized Subjects	Global Entrepreneurship	講義	2	MAN601	秋	今村 肇 Hajime Imamura	集中講義
		Global Creativity for Innovation	講義	2	ECP603	春	今村 肇 Hajime Imamura	集中講義
		Global Governance for the Creative Policies	講義	2	POL601	春	市川 顕 Akira Ichikawa	
		Open Innovation Ecosystem	講義	2	MAN602	秋	市川 顕 Akira Ichikawa	
		Strategic Management in the Creative and Cultural Industries	講義	2	MAN603	秋	カラズ ルネ Carraz Rene	
		Mapping Scientific and Technological Controversies	講義	2	SHS601	秋	カラズ ルネ Carraz Rene	
		Business Model Creation	講義	2	MAN604	春	佐藤 勝典 Katsunori Sato	集中講義
		Creative Organization and Human Resources	講義	2	MAN605	春	戸田 淳仁 Akihito Toda	
		Sustainable and Responsible Investment	講義	2	MAN606	秋	塚本 一郎 Ichiro Tsukamoto	
		Social Innovation/Public Private Partnership Innovation	講義	2	MAN607	秋	ララッタ ロザリオ Laratta Rosario	
		Global and Regional Transport Planning Policy	講義	2	CEP601			本年度休講(隔年開講)
	Global Business Domain	Global Financial Strategy-Fundamentals and Application	講義	2	MOF601	春	野崎 浩成 Hironari Nozaki	
		Practical Corporate Valuation from Global Perspective	講義	2	MOF602	秋	野崎 浩成 Hironari Nozaki	
Global Management and Financial Data Analysis		講義	2	ACC601	春	毛利 正人 Masato Mori		
GRC (Governance, Risk Management and Compliance) Required for Global Management		講義	2	MAN608	秋	毛利 正人 Masato Mori		
Analysis on Sustainable Development Goals (SDGs) of Japanese Corporation		講義	2	MAN609	秋	白田 佳子 Yoshiko Shirata		
Next Generation Marketing in the Context of Globalization and ICT Innovation		講義	2	MAN610	春	スーザン フィオナ Susan Fiona		
Basic Programming Technique for Financial Data Analysis		講義	2	SOF601	春	上田 敏樹 Toshiki Ueda		
Practical Data Analysis for Corporate Management		講義	2	SOF602	秋	上田 敏樹 Toshiki Ueda		

区分	授業科目	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	学期	担当教員	備考
Global Collaboration Domain	Media and Politics	講義	2	POL602	春	横江 公美 Kumi Yokoe	
	Media Relations	講義	2	MAN611	秋	横江 公美 Kumi Yokoe	
	UN and Global Governance	講義	2	INR601	春	井上 健 Ken Inoue	
	Multiculturalism and Education	講義	2	SOE601	春	花田 真吾 Shingo Hanada	
	Intercultural Competence and Education	講義	2	SOE602	秋	花田 真吾 Shingo Hanada	
	Global Political Economy	講義	2	INR602	秋	市川 顕 Akira Ichikawa	
	International Mediation and Peacemaking Diplomacy	講義	2	INR603	春	伊地 哲朗 Tetsuro Iji	
	Management and Resolution of Contemporary Civil Wars	講義	2	INR604	秋	伊地 哲朗 Tetsuro Iji	
Research Guidance	Research Guidance for Global Innovation Studies		2	REG601	春秋	市川 顕 今村 肇 カラズ ルネ スーザン フィオナ 野崎 浩成 花田 真吾 毛利 正人 横江 公美	

## 修了要件

- (1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- (2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。主指導教授の「研究指導」の単位のうち修了要件の単位への算入は8単位を上限とする。
- (3) 「Global Entrepreneurship Domain」の「Project Studies Subjects」から2単位以上を修得すること。

## 履修方法

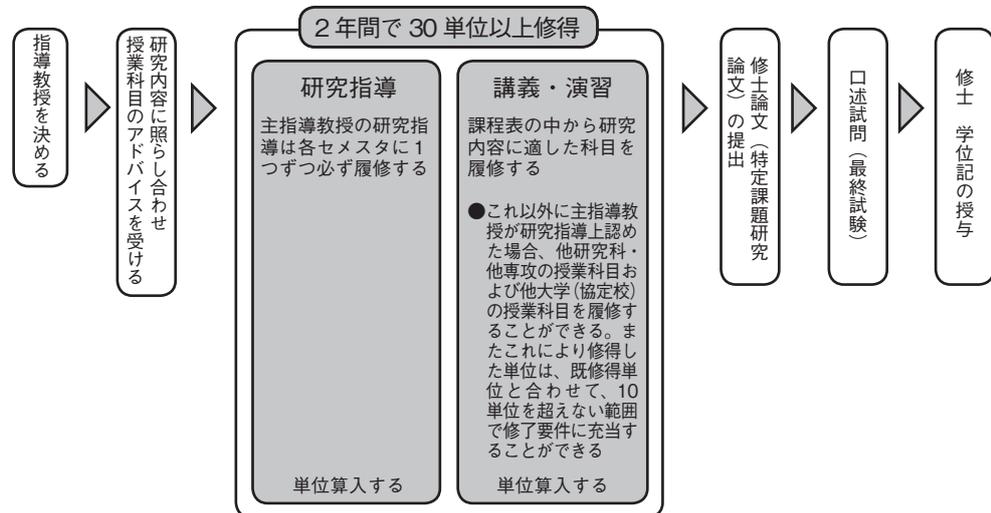
1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。
3. 「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。



# 国際地域学専攻

## 前期課程

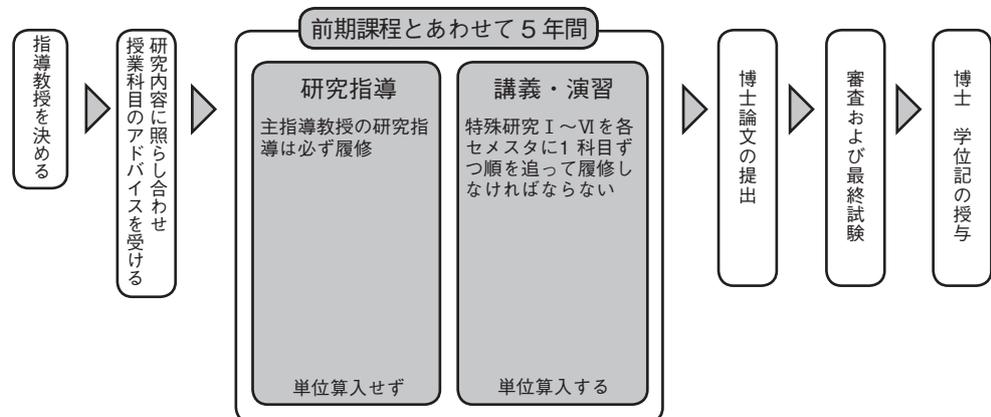
履修の流れ



特定課題研究論文を修士学位論文に代える場合は2年間で32単位以上修得(2019年度以前入学生のみ)

## 後期課程

履修の流れ



※本専攻では、自身の研究を一層深めるために、研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

## 国際地域学専攻

### 博士前期課程

区分	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	開講状態		担当教員	備考
					学期	言語		
リサーチスキル科目	量的調査手法演習 Practice of Statistics and Data Analysis	演習	2	STS601	春 秋	英 日	荒巻俊也 Toshiya Aramaki 岡村敏之 Toshiyuki Okamura	オムニバス形式
	質的調査手法演習 Practice of Qualitative Research	演習	2	STS602	春 秋	日 英	岡本郁子 Ikuko Okamoto 高橋一男 Kazuo Takahashi 沼尾波子 Namiko Numao 中村香子 Kyoko Nakamura	オムニバス形式
	アカデミック・リーディング Academic Reading	講義	2	ITS601	春	日	沼尾波子 Namiko Numao	
	Japan Studies	講義	2	ITS602	秋	英	子島進 Susumu Nejima 久松佳彰 Yoshiaki Hisamatsu 中島晶子 Akiko Nakajima	オムニバス形式
国際学分野科目	国際経済学特論 Advanced Theory of International Economics	講義	2	ECP601	秋	日	坪田建明 Kenmei Tsubota	*日英隔年開講
	国際関係学特論 Issues in International Relations	講義	2	INR601	春	英	中島晶子 Akiko Nakajima	*日英隔年開講
	国際政治学特論 Advanced Theory of International Politics	講義	2	INR601				本年度休講
	国際教育開発特論 Advanced Theory of International Educational Development	講義	2	SOE601	春	英	芦沢真五 Shingo Ashizawa	
	比較文化特論 A Comparative Cultural Studies A	講義	2	LIG601				本年度休講
	比較文化特論 B Comparative Cultural Studies B	講義	2	LIG602	春	英	佐々木悠介 Yusuke Sasaki	
	ボーダーレスな社会とインターネット技術 Advanced Theory of Internet Technologies in Borderless Society	講義	2	INN601	春	英	芦野俊宏 Toshihiro Ashino	
地域開発分野科目	開発経済学特論 Advanced Theory of Development Economics	講義	2	ECP601	春	英	坪田建明 Kenmei Tsubota	*日英隔年開講
	開発人類学特論 Advanced Theory of Development Anthropology	講義	2	CUA601	春	日	中村香子 Kyoko Nakamura	*日英隔年開講
	地域社会学特論 Advanced Theory of Urban and Regional Sociology	講義	2	SOC601				本年度休講
	福祉社会学特論 Advanced Theory of Social Policy and Welfare Society	講義	2	SWS601				本年度休講
	コミュニティ開発特論 Advanced Theory of Sustainable Cities and Community Development	講義	2	TPA601	春	英	安相景 An Sang kyung	*日英隔年開講
	農村・農業開発特論 Issues in Rural and Agricultural Development	講義	2	ECP603	秋	英	岡本郁子 Ikuko Okamoto	
	経済地理学特論 Advanced Theory of Economic Geography	講義	2	HUG601	春	英	藤本典嗣 Noritsugu Fujimoto	*日英隔年開講
	都市地理学特論 Advanced Theory of Urban Geography	講義	2	HUG601	秋	日	藤本典嗣 Noritsugu Fujimoto	*日英隔年開講
	都市・地域計画特論 Advanced Theory of Urban and Regional Planning	講義	2	TPA602	秋	日	志摩憲寿 Norihsa Shima	*日英隔年開講
	住宅政策特論 Advanced Theory of Affordable Housing Policy	講義	2	TPA603	秋	日	安相景 An Sang kyung	*日英隔年開講
	地球環境特論 Advanced Theory of Global Environmental Management	講義	2	EDA601	春	日	荒巻俊也 Toshiya Aramaki	*日英隔年開講
	国際環境衛生特論① Advanced Theory of Environmental Sanitation ①	講義	2	CEE603	春	英	北脇秀敏 Hidetoshi Kitawaki	
	国際環境衛生特論② Advanced Theory of Environmental Sanitation ②	講義	2	CEE604	秋	英	北脇秀敏 Hidetoshi Kitawaki	
	水資源・水環境学特論 Advanced Theory of Water Resources and Water Environment	講義	2	HYE601	秋	英	松丸亮 Ryo Matsumaru	*日英隔年開講
	都市交通計画特論 Advanced Theory of Urban and Transport Planning and Policy	講義	2	CEP601	春	日	岡村敏之 Toshiyuki Okamura	*日英隔年開講
財政学特論 Public Finance	講義	2	PFP601				本年度休講	
災害・危機管理特論 Advanced Theory of Disaster and Crisis Management	講義	2	NDD601	春	日	松丸亮 Ryo Matsumaru	*日英隔年開講	
空間計画特論 Advanced Theory of Spatial Planning	講義	2	TPA604	秋	英	山崎義人 Yoshito Yamazaki	*日英隔年開講	

区分	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	開講状態		担当教員	備考
					学期	言語		
地域開発分野科目	国際水道特論 Advanced Theory on Waterworks Management	講義	2	CEE602	秋	英	荒巻俊也 Toshiya Aramaki 北脇秀敏 Hidetoshi Kitawaki	
	空間計画演習 Spatial Planning Studio	演習	2	TPA605	秋 日英併講		山崎義人 Yoshito Yamazaki 志摩憲寿 Norihisa Shima	オムニバス形式
	国際地域応用学特論 Advanced Theory of Practical Regional Development	講義	2	SEM602			荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、佐々木悠介、志摩憲寿、坪田建明、中島晶子、中村香子、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、山崎義人	※
	国際地域応用学演習 Seminar on Practical Regional Development	演習	2	SEM606			荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、佐々木悠介、志摩憲寿、坪田建明、中島晶子、中村香子、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、山崎義人	※
研究指導	国際地域学特殊研究 Specialized Research on Regional Development Studies	演習		REG609			荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、佐々木悠介、高橋一男、志摩憲寿、坪田建明、中島晶子、中村香子、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、山崎義人	
	国際地域学研究指導 Special Lecture on Regional Development Studies		2	REG610			〔指導教員〕 荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、佐々木悠介、高橋一男、志摩憲寿、坪田建明、中島晶子、中村香子、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、山崎義人	

\* 日英隔年開講 日本語開講と英語開講を隔年で実施する。

※メディアを利用して行う授業科目

### 修了に必要な単位等

- (1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。ただし、2019年度以前入学生で修士論文に代えて東洋大学大学院学則第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、修了要件となる科目で32単位以上修得すること。
- (2) 「国際地域学研究指導」
  - ① 主指導教授の「国際地域学研究指導」を毎セメスタ必ず履修し、8単位修得すること。
  - ② 8単位以上修得した場合、修了要件としては8単位まで認められる。
- (3) リサーチ・スキル科目  
3科目6単位以上修得すること。
- (4) 「国際地域学特殊研究」を、修了予定直前のセメスタを含め2回以上修得すること。

### 履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。
3. 「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位取得することができる。ただし、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
5. 「国際地域応用学特論」および「国際地域応用学演習」は JICA 海外協力隊派遣者および JICA 個別専門家のみ、派遣期間中に限り履修することができる。なお、「国際地域応用学演習」は、履修方法3にかかわらず8単位まで修了単位として認められる。（JICA 個別専門家については2021年度以降入学生適用）

## 国際地域学専攻 博士前期課程 英語による授業について

表中「言語」欄に「英」と記されている科目は英語での授業を行います。

## JICA 海外協力隊及び JICA 個別専門家派遣期間中の履修方法について（JICA 個別専門家については2021年度以降入学生適用）

1. 派遣後最初のセメスタで国際地域応用学特論（2単位）を履修・修得する
2. 派遣期間中は、国際地域応用学演習を毎セメスタ必ず履修・修得する。
3. 履修方法1および2での修得単位は、合計10単位までを修了要件として認めることができる。
4. 派遣期間中、**主指導教授の「国際地域学研究指導」は、毎セメスタ必ず履修すること。**修得した単位は8単位まで修了要件として認められる。
5. 派遣期間を除く通学期間は、最低1年以上とする。

## 博士後期課程

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	担当教員
国際地域学特殊研究 Specialized Research on Regional Development Studies	演習	2	SEM707	荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、佐々木悠介、志摩憲寿、高橋一男、坪田建明、中島晶子、中村香子、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、山崎義人
国際地域学研究指導 Special Lecture on Regional Development Studies			REG701	〔指導教員〕 荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、志摩憲寿、高橋一男、坪田建明、中島晶子、中村香子、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、山崎義人

## 修了に必要な単位等

- (1) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- (2) 「国際地域学特殊研究」を毎セメスタ履修すること。

## 履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。
3. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

## 国際学研究科国際地域学専攻 修士論文の提出、作成要領について

### 1. 修士論文の作成要領

- ・ A4 判、ワープロ書き、横書き、片面印刷
- ・ 表紙について
  - 論文題目の字の大きさは、16 ポイント以上、それ以外は 14 ポイント。
  - 内表紙にも、同様の記載をする。
- ・ 本文
  - 文字：10.5 ポイント
  - 字数・行数：40 字、35 行
  - 余白：上下、左右ともに 3.0cm
  - ページ：下段、中央
  - 章題、図表の説明文等に関しては、適宜フォントを変更することは可能。
- ・ 目次、参考文献（巻末）、謝辞をつける。
- ・ 英文で提出する場合は、別紙を参考にして指導教員の指示に従い執筆すること。
- ・ 上記の形式と異なる場合には、指導教員と相談し、了承を得ること。

### 2. 修士論文要旨の作成要領（見本参照）

- ・ A4 判、ワープロ書き、横書き、4 ページ
- ・ 「国際地域学専攻修士論文」、提出年月（20〇〇年〇月）、指導教員名
- ・ 論文題目：14 ポイント（英文題目も）
- ・ 所属（東洋大学大学院国際学研究科国際地域学専攻博士前期課程）
- ・ 学籍番号→10.5 ポイント、氏名（英文名も）→12 ポイント
- ・ 英文要旨（200 語程度）、英文キーワード、日本語キーワード（5 個程度）
  - キーワードは、文献検索に利用されることを考慮し、論文の内容を的確に示す語を選ぶ。
- ・ 本文
  - 文字：10.5 ポイント
  - 字数・行数：40 字、40 行
  - 余白：上下、左右ともに 3.0cm
  - ページ：下段の中央

- ・ 図や表や写真の掲載も可能
- ・ 要旨の4ページ目（最終ページ）は、最後の25行を空白にする。この空白部分に主査・副査が審査報告を記入する。

【修士論文の要旨の見本】

国際地域学専攻修士論文要旨（20〇〇年〇月提出） 指導教員：東洋太郎教授

持続可能な環境都市に向けての一考察  
ーカーボンマイナス東京10年プロジェクトー  
国際学研究科国際地域学専攻  
3D20170099  
白 山 花 子  
A Study towards Sustainable Eco-City :  
10-Year Project for a Carbon-Minus Tokyo  
SHIROYAMA Hanako

Tokyo's basic posture on climate change in the next decade ……  
(英文要旨、200語程度) …… (略)

Key words : sustainable city, eco-city, CO2 reduction, Tokyo, carbon-minus  
キーワード：持続可能都市、環境都市、CO2削減、東京、カーボンマイナス

〈論文構成〉  
I. 序論  
1. 従来の研究と問題点  
2. 本研究の目的と方法  
II. カーボンマイナスプロジェクト  
(略)  
IV. 結論

〈要約〉  
本研究は……… (略)

(要旨)

---

【審査および最終試験の報告】  
本研究は、東京都のカーボンマイナスプロジェクトを事例として、持続可能な環境都市について考察し、……… (略)

………によって、本研究は修士論文として価値あるものと認める。  
(主査：東洋太郎、副査：文京次郎)

以上